

### 4 木製スツールに再利用

使用後の丸太トーチは、木材特有の消し炭が脚の部分や末口部分に残っています。この部分をナタやノミで削り落とし、木口や脚部を電動サンダーや紙やすりで滑らかに仕上げるとオリジナルの木製スツールに変身します。炭の焦げ目や根張りや節など、焼け残った部分の個性豊かな野趣あふれる木製スツールに変わります。焼け残りの節の部分や脚の合わせ部の曲線が微妙に現れ、味わいが出ます。

特に、根張りのある丸太は、元口から切れ込みを入れると脚部が外へ拡がり安定感が出ます。スギ・ヒノキの木香も残り、お手製の家具として、末永く炭素を蓄えたまま使うことになりやすい。各地のイベントなどで手軽なアウトドアグッズとして普及してみませんか。



完成した木製スツール



3月9日、都内のホテルにおいて国際森林年記念「第15回森林は友達！作文コンクール」の表彰式が行われました。

この作文コンクールは、旧東京分局管内（茨城県から静岡県までの1都6県）の森林管理署、森林管理事務所、高尾森林センター等が行った「森林教室・体験林業」に参加した小学4～6年生を対象に、感じたことを作文にすることによって、森林・林業に対する理解や関心をより一層深めてもらうことを目的に、関東森林管理局東京事務所と（社）東京林業土木協会が共催して、毎年度行っているもので、今回は、21団体（小学校19校、団体2）から1,533名の応募がありました。

昨年（2011年）は、国際森林年として世界中で森林の重要性についての認識を高める活動が行われたことから、この作文コンクールも国際森林年の関連行事として行いました。

最優秀賞には、「このままでいいのかな？」と題して、東日本大震災の巨大津波で大きな被害を受けた海岸林が、地域によっては、津波の被害をくい止めていた事実を知り、それをきっかけに、森林と人との関わりについて興味を持ち、調べていく中で気づいたこと、感じたこと等を素直に自分の言葉で書いた相模女子大学小学部4年生の藤澤ひろみさんが受賞しました。

この作文コンクールは、今後も次代を担う子供たちに森林・林業がいかに重要なものであるかを考える場として続けていくこととしています。



最優秀賞(林野庁長官賞)授与



## 幹部の紹介

5月1日付け（）は前職

森林管理署支署長

▽福島森林管理署

白河支署長

相原 慎二

（群馬森林管理署次長）